

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	2270600352		
法人名	株式会社 メディカ ジャパン		
事業所名	みしまケアセンター そよ風		
所在地 (電話番号)	静岡県三島市萩196-1	電話番号	055-980-542

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号		
訪問調査日	平成19年5月30日		

【情報提供票より】(19 年 5 月 14 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 11 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 15 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	600 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年5月14日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	9 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.8 歳	最低 73 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	循環器クリニック 新堀内科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

全国に100ヶ所くらいある「ケアセンターそよ風」の一つである。そよ風全体の基本理念として「介護は、ヒューマンサイエンスである」と謳い、職員に徹底され、介護に生かされている。また、法改正の主旨である地域密着型の方針に基づき、運営推進会議も活発に行われている。
このホームにはデイサービスが併設されており、その利点を生かして、利用者の交流・各種行事への相互参加・職員の協力体制等が築かれている。
外部評価に対する取り組みも積極的で、現在の努力を継続すれば、利用者や家族にとって益々喜ばれるホームになることが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価に対する取り組みも積極的で、過去3回の外部評価の指摘項目に対して、センター長・ホーム管理者・職員一丸となって取り組み、殆どクリアしている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	センター長、管理者、ユニットリーダーが中心となって外部評価、自己評価を行い、評価内容や改善テーマをユニットカンファレンスにて検討、改善へ向け取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	グループホームを良く理解してもらうことを主体に、ホームの状況説明や報告、地域への協力依頼、行事予定などを話し合っている。運営推進会議を通じて防災訓練や災害時の夜間協力依頼、地域清掃への参加や、家族からのいろいろな意見を引き出す場として活用するなど、関係する人達との輪をより大きくする活動に取り組んでいる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月ユニット別に発行しているホーム便り「そよ風通信」や、年2回開催の家族会、運営推進会議や面会時の声かけなどで、家族の意見、苦情、不安などを汲み取る努力をしている。家族からの意見、苦情等は各カンファレンスにて全職員共有し、改善への取組がなされている。日常の利用者の当たり前の様子も定期的に家族に伝わるよう更なる取り組みを期待したい。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内清掃、災害訓練、お祭りなどへ参加や、そよ風祭りや餅つきなどのホーム行事に地域の人達が参加されるなど、地域との連携は活発に行われている。幼稚園や小・中学校との相互訪問や、教員資格の介護実習の受け入れなどで地域との交流も深めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営母体がそよ風グループ全体の運営理念を作成し、各グループホームにてその実現に取り組んでいるが、改正法が求める地域密着型の観点からの見直しが必要である。	○	法が唱えるグループホームの基本方針が「家庭的な環境」にプラスして「地域住民との交流の下で」という地域密着型サービスの役割を求めており、グループ全体の運営理念に加え、地域に合った当ホーム独自の運営理念作成への取り組みを願いたい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が現運営理念を書面で持ち、毎日のミーティング時の読み合わせや全体会議、ユニット別のカンファレンスなどにて確認、実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会を通じて、地域の清掃活動や防災訓練、お祭りへの参加や、ホーム独自のイベント(そよ風祭り、餅つきなど)への参加呼びかけなど、地域との交流は活発に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	センター長、管理者、ユニットリーダーが中心となって外部評価、自己評価を行い、評価内容や改善テーマをユニットカンファレンスにて検討、改善へ向け取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月には7回目の開催と成り、自治会長、民生委員、地域包括センター、交番、利用者、家族などの参加があり、ホームの状況説明、報告を行い、話し合いでの意見などを日ごろのサービスに生かしている。また、防災訓練、夜間災害の協力なども得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での連携はまだ出来ていない。	○	事業所運営上のサービス向上や課題解決のためにも、地域包括センターとの連携や、他の窓口とも積極的な関係作りに取り組む願いたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、ホームでの様子やイベントなどの写真を、各ユニット別にホーム便り「桜・菫通信」を発行し、利用者の近況報告を行っている。また、家族の面会時には金銭管理、ケアプランや体調などの個別報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会や、運営推進会議や面会時の問いかけなどで意見・不満・苦情等を表わす機会を設け、出された意見等はカンファレンスにて全職員が共有し、改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動や離職は、利用者につらい思いをさせないため、伝えることはせず、他の職員がいつでもカバー出来る体制を取っている。新任の職員はそよ風通信にて紹介を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加呼びかけを行い、センター長が各職員別に参加計画を推進している。それらの研修報告は全体会議で報告され、全職員への共有化も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や三島市のグループホーム連絡協議会に参加し、近隣のグループホームとの相互研修や課題検討などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定利用者への体験入所の機会を設けたり、待機中に併設のデイサービス利用などでホームに馴染む機会を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居アセスメント時から利用者の得意分野や経験を見つけ、料理の仕方、裁縫、編み物、ペーパークラフト、野菜作り、園芸などを通じて、利用者に教えてもらう声かけや場面作りに配慮している。また、音大出身の職員による音楽療法を取り入れ、利用者と一緒に楽しむ関係作りも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から希望や意向を聞いたり、困難な場合は、カンファレンスにてその人らしく生活するという視点で支援方法を検討している。一つ一つの行動への声かけや、居間で職員と一緒に寝るなどの工夫をしながら、利用者の安心や希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思い、意見を聞きアセスメントを行い、職員による2週間に一度のモニタリングを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常はモニタリングに基づき、3ヶ月に1度の介護計画の見直しを行っており、変化が生じた場合はその都度現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスが併設されている利点を生かして、利用者の交流・各種行事への相互参加・職員の協力体制等が築かれている。また、病院の往受診・外泊等、本人や家族の希望に応えるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に基づきかかりつけ医を尊重し、その医師・看護師とも連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	センター方式を採用し、ターミナル期に対する本人や家族の意向を尊重し、その対応を検討し始めたところである。	○	一日も早くセンター方式を徹底し、全職員でその方針の共有化を願いたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けに留意しており、個人の記録にも注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームや職員の都合の優先を戒め、一人ひとりのペースに合わせるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好みを極力取り入れ、その方の能力に応じて、食事の準備、食事、片付け等を共にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望される方は、毎日入浴をしている。入浴時間も個々の健康状態を把握した中で、出来るだけゆっくり楽しめるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日常の対話の中から、その方の得意なことや趣味を把握し、活躍の場を提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣行事への参加や散歩・買い物など、希望により極力戸外に出掛ける様努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が認識し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を通じて、防災訓練や災害時の夜間協力依頼を行い、関係する人達との輪をより大きくする活動に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居前のアセスメントにて食事について伺い、入居後も以前の食生活や好み、量、栄養のバランスを考え食事が提供出来るよう心掛けている。水分補給も一日の必要分の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広々としており、段差なし・手すり取り付け等高齢者への配慮がなされている。また、冬には炬燵を置き、季節ごとの飾り物(鯉のぼり、雛人形)などを置いて家庭的な雰囲気作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時にご家族・利用者に馴染みのものを持参することをお願いし、個々の希望に応じた過ごし易い居室作りがなされていた。		